

參考文獻（年代順）

一、中文

- (1) 柏林(Isaiah Berlin)著，陳曉林譯。《自由四論》。台北：聯經出版，1989。
- (2) 楊國榮。《王學通論—從王陽明到熊十力—》。台北：五南書局，1997。
- (3) 李永熾。《日本近代思想論文集》。台北：稻鄉出版，1998。
- (4) 盧梭著，徐百齊譯。《社約論》。台北：商務印書館，1999。
- (5) 周天令。《朱子道德哲學研究》。台北：文津出版社，1999。
- (6) 張玉燕譯。《勸學》。台北：聯合文學，2003。
- (7) 彌爾著，郭志嵩譯。《論自由》。台北：城邦文化，2004。
- (8) 薛清江。《盧梭與彌爾自由理論之詮釋與比較》。台中：東海大學哲學研究所博士論文，2004。
- (9) 劉岳兵主編。《明治儒學與近代日本》。上海：上海古籍出版，2005。

二、日文

(一)史料

I. 德富蘇峰

- (1) 並木仙太郎·田中幸二郎編、『現代日本文学全集第4卷 德富蘇峰集』東京：改造社、1930。
- (2) 明治文献資料刊行会編、『国民之友 複製版』1號(明20.2)-8號(明20.9)；1卷9號(明20.10)-23卷372號(明31.8)、東京：明治文献、1966-1968。
- (3) 德富蘇峰、『近代日本思想大系8 德富蘇峰集』、東京：筑摩書房、1978。
- (4) 花立三郎·杉井六郎·和田守編、『同志社大江義塾 德富蘇峰資料集』、東京：三一書房、1978。
- (5) 德富蘇峰、『明治文学全集34 德富蘇峰集』、東京：筑摩書房、1984。
- (6) 隅谷三喜男、『德富蘇峰·山路愛山』、東京：中央公論社、1984。
- (7) 和田守·有山輝雄編、『民友社思想文学叢書全六卷別卷一 德富蘇峰民友社關係資料集』、東京：三一書房、1986。

II. 傳記

- (1) 德富蘇峰、『蘇峰自伝』、東京：中央公論社、1935。
- (2) 早川喜代治、『德富蘇峰』、德富蘇峰伝記編纂会、1968。

III. 其他

- (1) 中村正直「自由之理」、『明治文化全集第二卷 自由民権篇』。
- (2) 井上毅伝記編纂委員会編、「儒教ヲ存ス」『井上毅傳 史料篇三』、東京：国学院大学図書館、1969。
- (3) 中江兆民、『近代日本思想大系 3 中江兆民』、東京：筑摩書房、1974。
- (4) 日本弘道會編、『西村茂樹全集 1』、東京：思文閣、1976。
- (5) 日本史籍協會編、『横井小楠関係史料 2』、東京大学出版會、1977。
- (6) 松本三之介編、『明治思想集 I』、東京：筑摩書房、1980。
- (7) 山室信一等校注、『明六雜誌』、東京：岩波書店、1999。
- (8) 慶応大学出版会編、『福澤諭吉著作集 5』、東京：慶応大学出版会、2004。

(二) 単行本・叢書・講座類

I. 単行本

- (1) 小野寿人、『明治維新前後に於ける政治思想の展開』、東京：志文堂、1944。
- (2) 多田道太郎、『現代日本思想大系 自由主義』第十八卷、東京：筑摩書房、1965。
- (3) 同志社大学人文科学研究所編、『熊本バンド研究：日本プロテスタンティズムの源流と展開』、東京：みすず書房、1965。
- (4) 桑原武夫、『中江兆民の研究』、東京：岩波書店、1966。
- (5) 橋川文三編、『保守主義の思想』、東京：國民精神文化研究所、1968。
- (6) 松本三之介、『天皇制国家と政治思想』、東京：未來社、1969。
- (7) 植手通有、『日本近代思想の形成』、東京：岩波書店、1974。
- (8) 坂田吉雄、『明治前半期のナショナリズム』、東京：未來社、1976。
- (9) 杉井六郎、『徳富蘇峰の研究』、法政大学出版局、1977。
- (10) 同志社大學人文科學研究所編、『民友社の研究』、東京：雄山閣、1977。
- (11) 梅溪昇、『明治前期政治史の研究』、東京：未來社、1978。
- (12) ひろたまさき著、『福沢諭吉研究』、東京大學出版會、1980。
- (13) 花立三郎、『徳富蘇峰と大江義塾』、東京：ぺりかん社、1982。
- (14) 坂井雄吉、『井上毅と明治国家』、東大出版会、1983。
- (15) 飛鳥井雅道、『国民文化の形成』、東京：筑摩書房、1984。
- (16) 宇野俊一、大久保利謙等、『体系日本史叢書 政治史 III』、山川出版、1985。
- (17) Wm. T. ドバリー：山口久和訳、『朱子学と自由の伝統』、東京：平凡社、1987。
- (18) 王家驊、『日本の近代化と儒学』、東京：農山漁村文化協会、1998。
- (19) 和田守、『近代日本と徳富蘇峰』、東京：御茶の水書房、1990。
- (20) 石毛忠、鹿野政直等、『体系日本史叢書 思想史 II』、山川出版、1990。

- (21) 有山輝雄、『徳富蘇峰と国民新聞』、東京：吉川弘文館、1992。
- (22) ビン・シン（杉原志啓訳）、『評伝徳富蘇峰—近代日本の光と影—』、東京：岩波書店、1994。
- (23) 色川大吉、『新編明治精神史』、東京：筑摩書房、1995。
- (24) 隅谷三喜男、『近代日本の形成とキリスト教』、新教出版社、1997。
- (25) 梅津順一、『「文明日本」と「市民主体」：福沢諭吉・徳富蘇峰・内村鑑三』上尾：聖学院大学出版会、2001。
- (26) 米原謙、『徳富蘇峰—日本ナショナリズムの軌跡』、東京：中央公論、2003。
- (27) 西田毅ら、『民友社とその時代—思想・文学・ジャーナリズム集団の軌跡』、東京：ミネルヴァ書房、2004。
- (28) 坂本多加雄、『市場・道徳・秩序』、東京：筑摩書房、2007。

II. 叢書・講座類

- (1) 家永三郎「福沢精神の歴史的発展—福沢と民友社との思想的連関—」、『日本近代思想史研究』、東京大学出版会、1954年10月。
- (2) 高坂正顕「蘇峰の平民主義」、『明治文化史4 思想・言論』、1955年3月。
- (3) 遠山茂樹、山崎正一、大井正「徳富蘇峰と『国民之友』」、『近代日本思想史2』、1956年9月。
- (4) 松本三之介「徳富蘇峰—時代の流れと言論人」、朝日ジャーナル編『日本の思想家』2、朝日新聞社、1963。
- (5) 吉本隆明「日本のナショナリズム」、『現代日本思想大系』第四巻 ナショナリズム、みすず書房、1965。
- (6) 平林一「浮田和民と徳富蘇峰—若き日の思考と論理」、同志社大学人文科学研究所編『熊本バンド研究』、みすず書房、1965。
- (7) 松本三之介「明治思想における政治と人間・国民的使命観の歴史的変遷」、『近代日本の政治と人間』、創文社、1966。
- (8) 諸家、復刻版『国民之友』第一巻、明治文獻所収、1966。
大河内一男「国民之友」と労働運動/ 家永三郎「国民之友」の文化史的意義/ 小田切秀雄 文学史上の「国民之友」/ 住谷悦治 国民之友—経済思想史上は/ 鹿野政直 歴史学からみた「国民之友」/ 丸山真男 思想上の「国民之友」
- (9) 鹿野政直「市民的変革思想の観念論的展開」、『資本主義形成期の秩序意識』筑摩書房、1969。
- (10) 鹿野政直「臣民・市民・国民」、『近代日本思想史大系第三巻 近代日本政治思想史I』、有斐閣、1971。
- (11) 鹿野政直「徳富猪一郎と大江義塾」、『近代精神の道程』、花神社、1972。
- (12) 松本三之助「平民主義の思想像—徳富蘇峰」、『明治精神の構造』日本放送出版協会、新NHK市民大学講座8、1981。

- (13) 丸山真男「福沢に於ける「実学」の転回」、石田雄編、『近代日本思想大系 2 福沢諭吉集』所収、筑摩書房、1975。
- (14) 中村青史「徳富蘇峰」、平林一・山田博光編『民友社文学の研究』、三一書房、1985。

III. 雑誌・紀要

- (1) 信夫清三郎「徳富蘇峰—その七十年の思想的変転」、『改造』34、1953。
- (2) 大江志乃夫「豪農民権運動の源流—横井小楠から徳富蘇峰へ」、『歴史学研究』、1955。
- (3) 色川大吉「徳富蘇峰論」、『歴史評論』94 96 97、1958年3 5 6月。
- (4) 荒瀬豊「思想集団としての民友社」、『東京大学新聞研究所紀要』17、1968年3月。
- (5) 田畑忍「徳富蘇峰初期の政治思想—明治20年前後の論著、とくに「将来之日本」に見られる其の平民主義、平和主義について」、『キリスト教社会問題研究』14・15、1969。
- (6) 槇林滉二「横井小楠実学の系脈—蘇峰・廬花の意味」、『国文学55 広島大学国語国文学会』、1971。
- (7) ジョンD. ピアソン「『国民之友』に現れた民友社の社会、政治思想」、『人文科学6』、1974。
- (9) 住谷一彦「日本の「近代」とキリスト教—徳富蘇峰の歴史像と人間像」、『実存主義』86、1979。
- (10) 辻本雅史「横井小楠の「経綸の実学」と西洋理解」、『京都光華女子大学研究紀要19』、1981。
- (11) 槇林滉二「徳富蘇峰初期と漢学—発想の一基底について」、『近代文学試論』21、1983。